

カルメル

霊性センターニュース



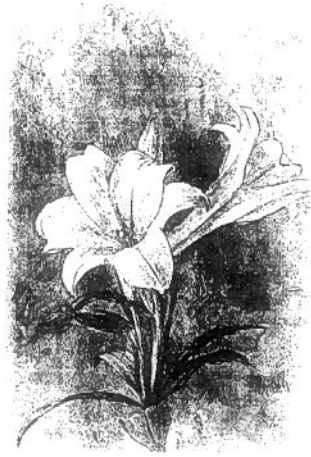
2015年5月

309号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	17
東京	18
京都	24
北陸	27
諸所の企画案内	29
年間購読(郵送)のご案内	40
編集後記	41

心の泉





第二卷

第十章 神の恵みに感謝する

1 霊的なあこがれ

あなたは労苦するために生まれたのに、なぜ休息を求めるのですか？慰めを喜ぶよりも、苦しむことに備えなさい。楽しく生活するよりも、十字架を担うことに備えなさい。いつも霊的な歓喜と慰めとを受けるとしたら、世間の人々さえも、喜んでそれを受けようとするであろう。霊的な慰めは、地上のあらゆる楽しみ、物質的な快樂にまさるものであるからである。世間の楽しみは空しいか、あるいは汚らしいものであるが、霊的な楽しみは充実していて汚れない。それは徳から生まれ、清い靈魂にそそがれるものである。とはいえ、誰一人として、思いのままに神の慰めを味わうことはできない。誘惑の時は、いずれ遠からず来るからである。

2 恵みのさまたげ

神が私たちの靈魂を訪れるに際し、大きなさまたげになるのは、心の誤った自由と自分への過信である。神がその慰めの恵みを与えるのはよいことであるが、人がそれに感謝を返さないのは悪である。そのために恵みの賜物が私たちの心に豊かに下らないのである。私たちは、その与え主に対して恩を忘れ、そのみなもとにすべてを帰そうとしないからである。受けた恩に感謝する人は新しい恵みを受け、値打ちがあり、おごる人は奪われ、へりくだる人には与えられる。

聖テレジア生誕500年を祝って

日々神と親しく生きる — 5月 —

主よ、
あなたがわたしたちと
ともにとどまることを
これほどまで望まれるということは
何ということでしょう！
あなたは
「わたしの楽しみは
人の子らとともにいることである」
と言われました。

おお 主よ、
これは何ということなのでしょう！

～聖テレサ～



さつき晴れの美しい月が巡ってきます。伝統的にマリアの月とされている5月には教会の典礼も素晴らしい祝日を迎えます。17日はご復活後40日間弟子たちと共に過ごされたキリストが天にあげられた昇天を祝い、そしてその1週間後には聖霊降臨を祝います。こうして過去の出来事の歴史的記録ではなく、神のみ前で沈黙のうちに思い巡らす祈りの時を過ごすようわたしたちは招かれています。母マリアはイエスについての生きた記憶を祈りのうちに弟子たちと共有し、聖霊の賜物を待ち望みました。受肉したみ言葉を生むためにすでに聖霊を受けていたマリアは、教会全体と共に同じ賜物を待ち望んでおられます(ガラ4・19)。

聖霊、来てください。

あなたの光の輝きで、わたしたちを照らしてください。

あなたはわたしの支え、恵みの力で救いに道を歩み続け、終わりになく喜ぶことができますように。

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

人を赦す (19)

くのり
九里 彰

(クレール・リの答えの続き)

フランスで私は、さまざまな講演をいたしました。そこで、信仰を誠実に生きている多くの人々に出会いました。たとえすべての日曜日のミサに与っていなくとも、彼らには福音があり、彼らは「良い知らせによって」互いに愛し合おうと努めていました。フランスの教会は、フランスの社会の塩であるように招かれています。フランスの教会は、もはや(人々を?) 統治(支配)できないという考えを受け入れる必要があります。なぜなら、私たちの神は、弱い神であり、もはや全能の神ではなく、イエスがエマオへの道でなされたように、私たち一人ひとりに同伴してくださる神だからです。キリスト教の召命は、他の人の所へ行き、自分と同じ信仰を持つよう強制することではなく、その人の人生の道連れとなることでしょう。真の人間を形成する道が必要とされています。この点で、フランスのヒューマニズムは、何か言うべきことがあるでしょう。ベネディクト 16 世が、「異邦人の中庭」でなされたことは、その一つでしょう。

2013 年 8 月 23 日

クレール・リのインタビューは、当然、フランス語でなされたと思われるが、邦訳はイタリア語からの訳である。したがって、重訳のために、本人が言ったこと、言おうとしたことと、かなりへだたりができていると思われるが、彼女の発言について少し考えてみたい。

彼女は、1970 年代後半に起きたカンボジアでの大量虐殺の犠牲者である。兄弟、父、夫を殺され、親族や友人を失い、家財産を失い、仕事を失い、故国を失った。難民としてフランスに移住し、そこで仏教からキリスト教へ改宗した。しかし、彼女にとって、「人を赦す」ことは、非常に困難であったことが分かる。

インタビューでは、クメール・ルージュを赦していない。赦すことができないと言ったらしいのだろう。「イエス・キリストの弟子でありながら、赦しはキリスト者の生活の中心である理解しながら、どうして私たちは、ノーと言うことができたのでしょうか」と言いつつ、娘に十字架上のキリストを見つめるように言っている。

復活節第5主日 (B)

みことばのひびき

(ヨハネ15：1-8)

復活節の間、典礼は私たちを甦られたイエスとより親密にさせ、私たちがいつもイエスに結ばれ、イエスが私たちに結ばれているということを認識させてくれます。イエスは私たち皆を真の使徒職に入るように、しかも共同体の関わりにおいて入るように招かれます。本日の聖書の句は、ぶどう樹とその枝のイメージのもとに、イエスと弟子たちとの間の親密な関係について述べています。御父はよい枝は手入れをし、役立たない枝は切り落とすぶどう園の農夫です。ぶどう樹と枝によってもたらされる実、即ちキリストと弟子たちからもたらされる実は、神の永遠の栄光です。

キリスト者は隣人を愛するようにとのイエスの命令に従う者であるべきです。もし罪ある態度を持ち続け、キリストの弟子としての義務を行なわないならば、ぶどう樹に与えている生命、即ちイエスご自身から切り落とされるとイエスは言われます。火に投げ入れられ焼かれたしまうほかは役に立たなくなってしまいます。一方で、イエスに留まり、イエスと親密な結びつきを持つ弟子たちは、御父に願うものを何でもかなえて頂ける状態を造り出します。同時に、イエスの言葉によって清くされ、彼らは確かに豊かに実を結ぶとイエスは弟子たちに言われます。イエスが言う実とは私たちの中に住む霊の実です。霊の実は愛、喜び、平和、忍耐、親切、寛大、誠実、優しさ、自己コントロールです。これらは、いのちの源としてぶどう樹に結ばれているために、私たちを通して輝いていなければならない徳なのです。実りの頂点は御父の栄光を目に見えるものにしてあります。私たちの生き方を通してのみ、人々は私たちの足跡に従うように鼓舞され、私たちが見出したものを見出すのです。それはイエスとイエスの教会を通して私たちのところにやって来る神の愛を知る喜びです。

イエスは本日御父についてと、この世における御父の働きについて語ります。御父とはどんなものであるかを私たちに明らかにされること、そして御父は何をなさるか、私たちの行動に忠えて何をなさるおつもりであるかを私たちに語ることがイエスの使命です。本日、福音は私たちとイエスとの関係が木と枝に似ていると語っています。枝は親木から分けられて独立して生き続けることはできません。私たちがキリストにしっかり留まってさえすれば、キリストは生涯私たちに留まっていてくださると約束されています。聖霊の実りの中を歩むならば、私たちの霊的生活は私たちを非難しません。キリストにおける私たちの霊的生活が私たちを非難しないならば、私たちは神の前に大胆に立ち、霊的に役立つものは何でも神に求めることができます。そして私たちはそれを豊かに受けます。神の命令は、私たちがイエスを信じ、イエスにおいてお互いに愛することです。この命令に従う人はイエスの中に住み、イエスはこの人たちの中に住みます。私たちと共に留まる神によって与えられた内在する聖霊の実りによります。何故なら、霊の実りの中で私たちが輝くならば、そのときイエスの霊は私たちの中におられます。イエスの霊が私たちの中におられるならば、そのときイエスは私たちの中に住んでおられます。

(Sr. Paulina)

「これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである」(ヨハネ 15, 11)。

最後の晩餐の席上での、つまり、受難と死の別離を控えた夜でのイエスのお話です。それで、このお言葉は、ある意味で、イエスの遺言とも言えます。イエスが形見として弟子たちに残すのは、「わたしの喜び」です。「しかし、今、わたしはみもとに参ります。世にいる間に、これらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らの内に満ちあふれるようになるためです」(ヨハネ 17, 13)。イエスが「わたしの喜び」と言われる、その喜びとはなんのでしょうか。「わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように」と言われていますが、イエスが喜びとされるのは、「御父の掟」を守りきり、その愛にとどまることを除いて他に何かあるのでしょうか。「ヨハネによる福音」では、「掟」との用語が特別な重要性をもっているようです。「掟」と訳出された単語は、ギリシャ語では、エントレーとの用語で表現されています、いわゆる「ノモス」、通常、「法」とか「律法」で訳出されるもの、あるいは、「さだめ」、「命令」とは異なっているようです。「わたしは命を、再び受けるために、捨てる。それゆえ、父はわたしを愛してくださる。誰もわたしから命を奪い取ることはできない。わたしは自分でそれを捨てる。わたしは命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。これは、わたしが父から受けた掟である」(ヨハネ 10, 17-18)。「掟」のヨハネ福音書での意味は、わたしたちが日常生活で使用している意味づけ、わたしたちの外からわたしたちを規制してくる強力な拘束力を持つものとは、少し異なっているようです。ヨハネにおいての特色は、御父とイエスの人格関係、愛の応答の関係の中に、この用語が位置付けられることです。この応答の人格関係の前提から切り離したところでは、その真意は把握できなくなります。そして、この人格関係を強化し、頂点に至らせるものとして、「掟」は機能しているようです。ですから、それは、法令、あるいは条文のように、一律に課されてくるものであるのではなく、また、静止し、固定されたものであるのではなく、成長し、成熟して行くダイナミックなものなのです。そして、「掟」のもう一つの機能は、わたし自身のアイデンティティの成熟をもたらすことにあります。イエスの喜び、それは、わたしたち一人ひとりを真実なアイデンティティの発見と成熟に導くことです。わたしたち自身が、真実の喜び、偽りの、見せかけの喜び、自己中心的な喜びではなく、イエスに、神に愛されている自分を発見し、隣人への奉仕に幸福を見出す喜びを行きて行く道、イエスの遺産なのです。ルカ渡辺幹夫

主の昇天 (マルコ 16: 15-20)

今日わたしたちは主の昇天を記念し祝います。栄光の主はご復活の四十日後に、弟子たちの目の前で天に昇っていらっしゃいました。イエスはこの地上に留められた四十日の間に、度々弟子たちに現れ、これからの宣教に備えて教え、導き、弟子たちを勇気づけられました。

主の昇天を思う時、わたしたちは主イエスの最高の姿を心に思いおこします。なぜなら主は天の御父の栄光のうちに天に昇られたからです。昇天なさる前、イエスは 11 人の弟子に仰せになります。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。信じて洗礼を受ける者は救われるが、信じない者は滅びの宣告をうける。」選民であるイスラエルの人々に神の国のことを教え広めて来られたイエスは今これを世界中の人々に宣教するよう弟子たちに命じられています。主イエスを信じて働く者は主と同じ力を得て働く事ができ、またそれ以上のことをも天の御父がさせてくださると約束なさいました。弟子たちには世界中の人々に福音を宣べ伝える使命が与えられたのです。弟子たちは聖霊の賜物である特別の恵みを受け、福音を宣べ伝え、洗礼を授け、イエスの力によって病人を癒しました。聖霊降臨の日に御母マリアと共に祈っていた弟子たち一人ひとりの上に聖霊が降り、想像することも出来ないほどの素晴らしい恵みを注がれた事はとても意味深く重要なことでした。イエスはキリストの共同体は決して単独では存在することなく常に聖父と聖子と聖霊の三位一体の現存のうちにあることをお教えになります。この現存は教会に新しい生き方を与えます。イエスの昇天は主がいつも教会に現存されるという気付きを与えます：主は教会共同体のうちに現存され、ご聖体のうちに、神のみ言葉のうちに、そしてキリスト者の集いのうちに現存されています。不思議なことですが、わたしたちの信仰はイエスがまだここにおられることを確信するのです。

主の昇天の出来事は今から 2000 年以上も前のことですが、そのとき仰せられた主のことは今もなお力強く活気に満ち、今を生きるキリストの証人であるわたしたちを勇気づけています。ですから主の昇天の祭日は単なる記念の日ではなく、教会の中に生き続け現存しておられるイエスキリストのお祝い日です。主イエスは使徒たちに対してと同様に、わたしたちにも各自の派遣されている生活の場で、イエスを思い、イエスの望まれること、イエスの教え、その生き方を周りの人々に伝えて行くよう命じておられます。聖霊降臨はこのためのものです。聖霊の恵みを豊かに受けた弟子たちは、信じられないほどの能力、行動力、勇気、霊的な心、主キリストご自身を着て主の福音を宣教し、多くの人を神との和解に導きました。今日の福音にはこの使命に関する四つのことが述べられています：イエスの生き方、価値感を宣べ伝え人々と福音を分かち合うこと、イエスのなさった身体と心の癒しを、イエスの力を得て続けていくこと、聖霊の絶大な力を経験し、いつでも、どこでも共にいてくださるといふイエスの現存を経験すること。イエスはこの世の終わりまで共に居てくださるのです。それでわたしたちも皆イエスのように天に上げられ、御父の御前まで昇っていくことを約束してくださるのです。

(Sr. Paulina)

聖霊降臨 使徒言行録 2, 1-11 ガラヤ 5, 16-25 ヨハネ 15, 26-27:16, 12-15

「言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる」(ヨハネ 16, 12 - 13)。

今日、わたしたちが祝い記念している救いの出来事は、聖霊降臨、ペンテコステです。ペンテコステ一五旬節、つまり、過ぎ越しの祝い、救い主の十字架の死と復活の五十日目の祝いに当たるからです。実は、過ぎ越しの秘義で頂点に達した神の救いの業は、旧約聖書に記される神に選ばれた民、イエスエルへの神の救いの営み、救いの歴史、つまり、ユダヤ人たちが記念してきた歴史を背景にしてこそ、本当の意味が見えてくると言われています。それでは、ユダヤ人たちは、五旬節、過ぎ越しの祝いの五十日目に何を記念していたのでしょうか。それは、エジプトを脱出し、紅海を渡り、シナイ山で、モーセを通して与えられた、神の契約、いわゆる十戒の授与を記念していました。わたしたちは、エジプトを脱出したイスラエルの民と言いますと、単一民族、一つの血縁によって結ばれた民族を想像してしまうかもしれませんが、実は、そうではありませんでした。モーセが出身した核になる民族があったのは確かですが、この核の周りにエジプトで虐げられていた他の民族、種族も合流して共に解放の旅を始めています。シナイ山で、神は、この混合集団を、モーセを通して、契約に招いたのです。そして、この混合集団が、モーセを通して、神の提示した契約を守ることを宣言し、約束した。ここに、約束の地に向かって旅を続ける「神の民」、血筋、言語、民族の隔を超えて一致、団結する、新しい未来を創造して行く、別の言葉で言えば、生死、運命を共にする愛の絆に結ばれた「民」が誕生しました。しかし、この神の救いの業の原点で体験した、血筋、民族の枠を超えた、神との契約による愛の共同体の意識は、いつしか弱くなり、ユダヤ民族と言う、血統、文化、言語を共にするものと言う、閉鎖的、排他的な考えが表面に出てきてしまっていたのです。たとえ、神が始めてくださったことであっても、人間の手の中に置かれると、いつしか神の真意を離れ、人間たちの悪意はないのですが狭い判断に陥ってしまいます。この人間の自分ではどうにもできない限界の壁を打ち破るのが、実に神からの御霊、偉大な力、十字架のイエスの死の実のり聖霊の働きなのです。「今、あなたがたには理解できない。しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる」(ヨハネ 16, 12 - 13)。

ルカ渡辺幹夫

三位一体の主日 (マタイ 28 : 16—20)

この上なく聖なる三位一体の祝日に、教会はわたしたちが信じている神の、もっとも重要で測り知ることのできない神秘である三位一体について思い巡らすよう勧めています。わたしたちが理解する三位一体の三つの位格固有の役目、それぞれの働きはその名が示しているように思われます。即ち、創造主である父と贖い主である御子と神の恵みの源、恵みそのものである聖霊です。御子であるイエスはご自身が父とまた聖霊と密接に愛の絆で結ばれておられ、一致しておられることを明確にお教えになっています。

わたしたちの信仰は神のこれら三つの位格は真に別のものでありながら一体であることを教えます。この神は人類と密接に親しく関わられご自身の霊をお与えになりました。父は最も聖なる三位一体の源です：父はその本源です。父は御子に命をお与えになります：永遠から御子をお産みになっています。御子は絶えず父から命を受けておられ、御子が父のお蔭で存在していると仰せになっているように第一の位格は父であり、御子の命の源ですから父と呼ばれています。第二の位格は父から命を与えられている御子です。父と子は想像を絶する完全な全き愛の交流のうちにおられます。その愛はあまりにも完全なので位格となられ聖霊です。第三の位格は父と子の間の位格的な愛であり、父と子の一致の絆なのです。わたしたちの信仰生活において父と子と聖霊の御名ほど度々口にされる親しい名は無く、三位一体はわたしたちがキリストとの親しい交わりの生活を生きる時深く関わってくださるのです。

今日の福音はマタイの最後の1節です。それはイエスがどのようにしてよい知らせである福音を広め知らせて行く仕事を弟子たちに委託されたかを記しています。このイエスの委託はこれから先ずっと地球規模で福音を告げ知らせ、これを受け入れるすべての国の人々に有益なものとして行く権限を弟子たちにお与えになったということです。教会は全ての人に対して開かれたもので排他的なものではありません。イエスを信じる全ての人には父と子と聖霊の名によって洗礼を受けなければならない、と主は仰せになっています。これは神の完全な啓示であり、新に選ばれた人々が地上の神の国の一員となる入門の秘跡です。新たに信者になった人々は聖なる三位一体の神を所有する者とされます。イエスの委託には教え伝えることも含まれています。弟子たちはイエスが教えて下さったこと、多分山上の垂訓や真の愛の交わりや関わり方などについて教えていただいたことを参考にして教え伝えたことでしょう。最後に、イエスは永遠に弟子たちは現存されるイエスを頼りに働くことが出来る保証をくださいました。福音が宣べ伝えられるところすべてに主は現存されるのです。このイエスの最後のおことばはわたしたちのどれほどの勇気と力の源になるでしょう。弟子たちの行動すべてのうちに、またその困難や苦しみのうちにも主は神の力をもって現存されるのです。主はこのことを、11人の弟子たちに限らず、この世の終わりまで、すべての主の後継者であるわたしたちに約束してくださっています。

(Sr. Paulina)

冬のあいだの凍えが和らいで、陽光の明るい温かさを感じるようになった春の一日、ボランティア仲間として志を同じくし、長い年月を共にした親しい友Sが彼の国へと旅立ちました。

もはや治癒することのない病を得て、この日が間もなく来るのを知ってからわずか二年足らずのことでした。しかもSは自身の病を知る数か月前に、夫君を看取り送っているのです。

(実はこれまでに二度Sのことを私は当誌に書きました)

ほんとうに何もかもが予想もし得ないあつという間の出来事で、今私自身がぼんやりした虚脱感から抜け出せずにいます。

Sがいなくなった実感がないわけではないのですが、いないということがどうということなのかがよくわからないのが、ほんとうの実感です。目に見えないこと、耳に聞こえないことがここにいないことに思えないのです。

Sとのこの二年間は思いもかけなかったほど密な関わりとなり、深い時間となりました。普段にはない或る力に満ちた静謐な時を共にする、恵みの月日であったことに思いを致します。ただ、Sは死んでゆくのであり、私は生き残るのだという、どうしようにも決して動かすことのできない厳然の事実が、常に目前に立ちふさがり、打ちのめされましたが、最後までいい日を生きようと支え合いました。

Sは背が高くスマートでとても真面目な人柄。英語の先生であり、短歌を詠み、能楽と薔薇の花を愛しました。そして味わい深い勢いのある達筆で、たくさんの手紙をくれました。私はSの字がほんとうに大好きです。

残された手紙に目が留まり、慕わしい筆跡を眺め、指を添わせて思いを寄せるとき、Sがいなくなったことをはっきり理解はしないままに、胸ふたぐ悲しみがこみ上げます。想いがめぐります。

次々と出現してきた転移のこと、薬の副作用の耐え難い苦痛、もはやここでと治療をやめる決断をした時のこと。そんな中にも、共にした昔の時間を語りなおし、味わいなおしたこと。声を出して話すことが困難となり、これが最後ねとかかかってきた電話。そのときの言葉と、言葉にならなかつたものと。ほんとうのほんとう、最後の最後に互いに交わした「ありがとう」ということば。有ることがまたとない出来事で、この上なく貴重だという「ありがとう」の意味を全身で知ったこと。

最後のこの電話の後から、私は三日に一度くらい、ひんぱんに一方的に手紙を送り続けました。ほんのひと言を記して呼びかけ、語りかけ続けました。Sが旅立った朝、ご子息から電話を受けました。

「お手紙をたびたび頂いていましたが 後の方にはもう母はわかる状況になく いくつかのお手紙は封を切らずにそのままあるのです」 私は、お許しただけならどうかお柩の中にと、お願いしました。

「是非そうさせていただきます 母に持たせます 最期までありがとうございます 母から言い付かっておりましたが 息子としてお礼を・・・」
ご子息の声は、涙で途切れえました。

封を切らずにSが彼の国へ持っていった数通の手紙を思い、何とも言えない不可思議な気持ちになっています。

(最後の一通はSの旅立った後に着いたのです)

私の身がこの世とあの世と両方に渡り懸ってしまったかのような、どこか未知へと連れて行かれたかのような、とても奇妙な気持ちなのです。

魂が無辺世界をさまようような、捕えることができない望みのような、遥かな願いのような、不安定な感覚なのです。

Sは封を切ったのでしょうか。あの細く長い指先で中の手紙を取り出して読んだのでしょうか。そして硬質の、でも甘やかなあの声で「石原さん」とつぶやき頷いて笑ったのでしょうか。

丹沢の山並みのふもとに、樹木葬として眠っているS。

「大山の方を向いて わたしのことときどき想ってね」と言っていたSの声が聞こえます。 S 必ずまた会いましょう。 いつか必ず会うのよ。

† 主よ 絶えざる光を照らしてください。

Sに永遠の安息を与えてください

いのちの言葉 5月

しかし、憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、
その愛によって、罪のために死んでいたわたしたちを
キリストと共に生かしてくださいました

(エフェソの信徒への手紙 2・4-5)

主なる神が、シナイ山でモーセに姿を現された時、ご自分がどのような方であるかを明らかにしながらこうおっしゃいました。「主、主、憐れみ深く恵みに富む神、忍耐強く、慈しみとまことに満ちた者」(出エジプト記 34・6参照)と。この憐れみに満ちた神の愛の特質を表現するために、ヘブライ語の聖書では、母親がわが子に抱く愛を示す言葉が使われています。自分の子を慈しみ、傍らでたえず見守り、大切に養い育てるという意味の言葉です。さらに、この憐れみ深い愛の他の面を表わすもう一つの言葉も使われていますが、それは、忠実、善意、連帯を意味するものです。

イエスご自身も、神の愛について解き明かされました。神は「父」でおられ、私たちの傍らにいて、あらゆる事に心を留め、たえず赦し、必要なものは何でも与えてくださる方なのだと。ですから、このみ言葉が引用された「エフェソの信徒への手紙」が強調しているように、神の愛は、ほんとうに「豊か」で「大きな」ものなのです。

「しかし、憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かしてくださいました。」

パウロのこの言葉は、まるで喜びの叫びのようです。「しかし」という言葉で始まっていますが、それは、以前人間が置かれていた悲劇的な状態といかに対照的なものであるか、パウロが気づいたことを示しています。つまり人間は、かつて過ちと罪に押しつぶされ、自分勝手な欲望に従って歩み、あからさまに神に逆らう生き方をし、神の怒りを買っても当然の状態だったのです(エフェソの信徒へ手紙 2・1-3参照)。それにもかかわらず神は、パウロも驚いているように、そんな人間に罰をお与えになるところか、逆に、ふたたび命を与えてくださいました。こうした「神のなさり方」については、すでにイエスも、「たとえ話」の中でそれを垣間見させてくださいました。たとえば、二人の息子を持つ父親が、みじめな生活に陥った弟の方を両手を広げて迎え入れた話や、迷い出た子羊を自ら捜しに出かけ、家に背負って戻って来た良い牧者の話などです(ルカ15・11-32、3-7参照)。

これらの「たとえ話」の中で象徴的に語られている父親としての、憐れみ深い神は、私たちを赦してくださっただけでなく、御子イエスと同じ命、満ち満ちた、聖なる命を与えてくださったのです。

「しかし、憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かしてくださいました。」

私たち一人一人に対しても、神は「憐れみ深い」、「大きな愛」を示され、つねに私たちを赦し、信頼を置こうとなさっています。たとえ罪を犯し、苦しみや孤独の中においても、神は必ず私たちの傍らに来られ、私たちがふたたび立ち上げられるように、やり直す力を与えてくださるのです。

二年前の三月一七日、教皇フランシスコによる初めての「お告げの祈り」の中で、教皇は、神の憐れみについて語りながら、次のようにおっしゃいました。「神のみ顔は、つねに忍耐強く、憐れみ深い父のみ顔です。…私たちを理解し、私たちを心にかけて、私たちをうむことなく赦してくださいます…。」その後も、教皇は頻繁にこの「憐れみ」をテーマに取り上げておられますが、「お告げの祈り」の結びにはこうおっしゃいました。「神は愛に満ちた父です。この方はつねに赦し、私たち皆に対して憐れみの心をもっておられます。私たちもすべての人に憐れみ深くなることを学ぼうではありませんか。」

教皇の締めくくりの言葉は、私たちが今月のみ言葉を具体的にどう生きたらよいかを示す道しるべとなるでしょう。

もし、神が、私たちに対して憐れみ深く、大きな愛を示してくださるといふなら、私たちも、他の人に対して憐れみ深い者となるように招かれています。もし、神が、ご自分に逆らう人をも愛してくださるといふなら、私たちも「愛するのが難しい人」、自分に逆らう人にも愛を示す努力が必要でしょう。

パウロは、神に選ばれ、愛されているコロサイの共同体の信徒たちに向かって、「憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい」(コロサイの信徒への手紙3・12)と招きました。

人々の苦しみや必要に寄り添い、すべてを赦し、守り、大切に養ってくださる、そのような神の愛を信じているのであれば、私たちも、その神の愛を人々に対して抱くべきでしょう。

このように生きるなら、私たちは神の愛の証し人となることができるでしょう。そして、私たちに出会う人々は、私たちを通して、「神様は自分にも憐れみに満ちた大きな愛を抱いていてくださるのだ」と気づくことができるでしょう。

ファビオ・チャルディ神父

*2015年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。
いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先：フォコラーレ
03-3707-4018/03-5370-6424
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp
ホームページ:フォコラーレで検索
<http://focolare.world.coocan.jp/>

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (91)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

どのようにして恍惚状態に入れるのですか？

あの時代の霊的な人々は、幻視や啓示や恍惚やその他の宗教的現象にとっても関心を抱いて生きていました。

ある時、人々は十字架の聖ヨハネに、「どのようにして恍惚となるのか、どのようにして恍惚状態に入れるのか」と尋ねました。彼は、その質問を避けながら――と私には思われますが――、こう答えました。「自分の意志を否定し、神の意志を行なうことによって。なぜなら、恍惚は、靈魂が自分から出て、神の内に心が奪われてしまうこと以外の何物でもないからです。神が、従順である者を、自分から、また自分の欲求から出させ、心を軽くし、神で満たされるようにするのです」。

この答えは、恐らく好奇心で一杯になり、彼に質問をした人々に対する、十字架のヨハネが与えた最上の答えでしょう。

有り難いことに、何度も触れているコバルビアのセバスティアンが、この分野に存在したいかがわしさに言及しながら、このことについて書いてくれています。「さて、恍惚とは、私によれば、霊が奪われることで、人をすべての感覚の外に置きます。激しい想像力によってか、突然の喜び、または恐れのない悲しみによる何らかの急変によってかで引き起こされます。聖ディオニシオが言っているように、時々、非常に観想的で聖なる人々に起こります。他の場合は、非常にずる賢い偽善者や、恍惚に陥ったとでっちあげるある種のあばずれ女が、その振りをします。この種の人々の多くは罰せられ、それによって他の人々は回心しました。このようにして、人々は、彼らをそう簡単には信じません」。

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（187）



前回で「旅路の糧」の訳は終了しました。以下はナーウエンの巻頭言です。

この本を書こうとした時の逸話（1）

この一年間の本を書くことは、私にとって本当に霊的な冒険となりました。それは、どれだけ続くのか、どこまで行くのか、またどこに行き着くのかを知らずに、旅にでるような感じでした。ハーパー・サン・フランシスコ社の友達たちが、私がすでに出版した本の中から 365 の引用を取り出し、本を作ってもよいか尋ねて来た時、私は自分の言っていることの意味を十分に理解せずに、「私は、古いテキストを使ってほしくない。私は新しいものを書く」と答えました。彼らは笑って答えました。「そうですか、それはちょっと野心的かもしれませんね。いくつか新しい考察を書いていただき、それに、今まで書いたものを加えて、私たちが完成するというのでは、どうでしょう」。けれども、私は頑固に、主張しました。「いやいや、すべて新しくしなければならぬ」と。

1995年9月、私は最初の考察を書きました。私は、小さな美しく装丁された無地のノートを買いました。カバーには、ニューヨークのメトロポリタン美術館蔵の芸術作品の写真が載っていました。80枚の白紙のノートで160頁ありました。私は、右側の頁に一つのまとまった考察を書くことを自らに課しました。それによって、各々の考察を、他の考察から独立して読めるようにしました。それぞれ、同じ頁の中に始めがあり、中間があり、終わりがあるようにしました。左側の空白の頁は、後で変更や修正するためにそのまま空けておきました。

初めの内はすべて面白く感じました。私は、祈りや孤独や沈黙や他のよく知られている事柄について書きました。つながりや順番や全体の計画などまったく気にせずに、自由に心に思い浮かんできたことを書きました。私が行く所にはいつも携えて行った小さなノートは、親密な会話を交わす同伴者のようになりました。私は、一日に少なくとも三回、会話を交わすように努めました。9月末には、私の空白のノートは一杯になったので、とても誇らしく感じました。けれどもその時、一年間分の文書を書きためるには、このようなノートをほぼ五冊一杯にしないと駄目であることに、ようやく気づきました。365日は、突然、ぎよっとするほど長い旅であるように思われました。確かに、私はまだいくつかの着想を持っていましたが、後285日は、かなり大変な挑戦であるように思えました。私はそれほどたくさんのお考えを持っていたのでしょうか。

九里 彰訳

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

2015年3月9日

教皇フランシスコから跣足カルメル修道会総長へのメッセージ(1)

カルメル山の聖なるおとめマリアの跣足修道会総長

ザベリオ・カニストラ神父様

招親愛なる兄弟よ、

イエスの聖テレジア生誕500周年記念に際し、私は全教会とともに跣足カルメル修道会の偉大なファミリーである男子修道会、女子修道会と在世会の皆様に、このたぐいまれな女性のカリスマに対し感謝の意を表します。

この生誕記念が今年の「奉献生活の年」と時を同じくして行われることは、摂理的な恵みであり、アビラの聖女は、神にすべてを明け渡す奉献者の模範として、信頼できるともし火のごとく輝いていると思います。また過去を感謝をもって眺め、創立者たちと最初の共同体を駆り立てた“奮い立たせる火花”を再発見するという別の理由もあります。(2014年11月21日 教皇フランシスコ使徒的書簡「奉献生活者の年にあたって 全ての奉献者の皆さんへ」参照)

今日においても、キリストとの直接的な出会いから生まれた聖女の奉献の証しや、神との絶えざる対話的祈りの体験や、母なる教会に基礎を置く共同体生活は、私たちにとって、何と美しいものでしょうか。

1. 聖テレジアは、何よりも祈りの教師です。キリストのご人性の発見は、聖女の体験の中心です。この個人的な体験を他の人々と分かち合いたいとの強い願いから、聖女は、それについて生き活きとした分かり易い文章で、誰もが近づけるように書き記しています。なぜなら、祈りは、「自分が神から愛されていることを知りつつ、その神との友情の親密な交換に他ならない」(『自叙伝』8.5)からです。

しばしば、繰り返される言葉は、読者をキリストとの内的な対話へ引き込もうとするかのような懇願となっています。テレジアの祈りは、一瞬のために、あるいは一日の中での特定の時ためにあるものではありません。それは、あらゆる様々な状況において、自発的になされる祈りです。聖女は、「ひきこもって一人にならなければ念祷ができないとすれば、なんと情けないことでしょう」(『創立史』5.16)と述べています。聖女は、絶えざる祈りの価値を、それが常に完全でなくとも、確信しています。また無味乾燥のさなかでも、個人的な困難にあっても、差し迫る緊急事態の中でも、祈りに忠実に堅忍するよう私たちに求めています。

以下 次号に続きます。

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～2016年3月

黙想企画 ** 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 日帰り一日黙想会 10時～16時

[聖人たちを支えた神のことば] 福田正範神父

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・。

2015年

4/17 (金)、~~4/30 (木)~~ (中止)、5/15 (金)、5/28 (木)、6/19 (金)、
6/25 (木)、7/10 (金)、7/23 (木)、9/3 (木)、9/18 (金)、
10/30 (金)、11/5 (木)、11/20 (金) 12/3 (木)、12/18 (金)

2016年

1/15 (金)、1/28 (木)、2/12 (金)、2/25 (木)、3/11 (金)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

2. 奉献生活者のための黙想会

8月 1日 (土) 18時～	8月10日 (月) 朝	福田正範神父
8月12日 (水) 18時～	8月21日 (金) 朝	福田正範神父
10月13日 (火) 18時～	10月22日 (木) 朝	福田正範神父
12月27日 (日) 18時～	2016年1月5日 (火) 朝	福田正範神父

3. 青年黙想会(男女) 福田正範神父・カルメル会士

11月13日 (金) 16時～15日 (日) 16時

4. 召命黙想会(男女)

9月25日 (金) 16時～27日 (日) 16時

5. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

5月29日(金)20時～31日(日)16時「わたしは神をみたい」

11月 6日(金)20時～ 8日(日)16時「いのりの道」

6. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2015年12月24日(木)～25日(金) 朝食《講話なし、夕食なし》

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。
2016年 3月24日(木)夕食～27日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

New ! 男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願い致します。
間違いを避けるためなるべく、FAX・はがき・Eメールで連絡して頂ければ幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院 (黙想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

日帰り一日黙想会

「聖人たちを支えた神のことば」

時 間： 10時～16時
指 導： 福田 正範 師（カルメル会上野毛修道院司祭）
場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
会 費： ￥3500（昼食を含む）



“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」（啓示憲章6章25）信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・。

日 程：

2015年

4/17（金）、~~4/30（木）~~（中止）、5/15（金）、5/28（木）、6/19（金）、
6/25（木）、7/10（金）、7/23（木）、9/3（木）、9/18（金）、
10/30（金）、11/5（木）、11/20（金）12/3（木）、12/18（金）

2016年

1/15（金）、1/28（木）、2/12（金）、2/25（木）、3/11（金）

お問合せ・・・TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

お申込み・・・*黙想会の3か月前より申込みを受付けます

FAX、メール、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

特別黙想会

2015年5月29日（金）20時～31日（日）16時

わたしは神をみたい



神の似姿に創られた

私たちを捜す神のまなざしに出会い

私たちを捜し続けられる 神を迎え入れるために

しばらく神のみ前に 静かなひとときを過ごしてみませんか？

- 指 導： 伊従 信子 （ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品： 新約聖書、『いのりの道—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師と共に』
聖母文庫（黙想の家で購入できます、）筆記用具、パジャマ
- 参加費： ￥12000
- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

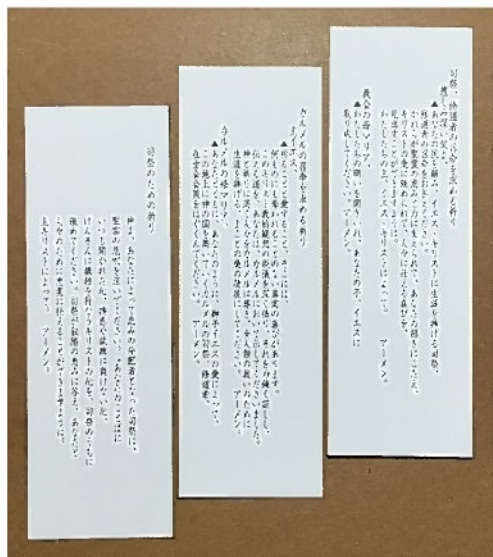
158-0091 東京都世田谷区上野毛2-14-25 TEL 03-5706-7355

申し込み方法： FAX 03-3704-1789 または、ハガキにて。

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

イエスの聖テレジア生誕500周年記念

「祈りの葉」頒布のご案内



イエスの聖テレジア生誕500周年を記念して祈りの葉をカルメル在世会で作成しました。上記のデザイン6枚を1セットとして袋に入っています。

裏には「司祭、修道者の召命を求める祈り」「司祭のための祈り」が印刷されています。イースターのプレゼント、新受洗者へのお祝い、愛読書や祈りの本の葉としてご愛用いただければと思います。

お求めは下記まで

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
 カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
 TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1789
 E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

1セット ¥200

2015年～2016年 黙 想 会 案 内

(宇治カルメル会)

【一般のための黙想】 ・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

2015年	5月23日(土)～24日(日)	主よ私たちにも祈りを教えてください	中川博道 神父
	9月5日(土)～6日(日)	イエスと友情を生きる「聖テレジアに学びながら」	中川博道 神父
	11月28日(土)～29日(日)	日常生活の中でイエスと共に生きる	中川博道 神父
2016年	1月9日(土)～10日(日)	私が洗礼を受けたこと	中川博道 神父

【聖書深読黙想会】

・ 1日 (午前10時～午後4時)				
2015年	5月9日(土)	渡辺幹夫神父	9月12日(土)	渡辺幹夫神父
	6月13日(土)	渡辺幹夫神父	10月10日(土)	渡辺幹夫神父
	7月11日(土)	中川博道神父	11月14日(土)	中川博道神父
			12月12日(土)	渡辺幹夫神父
2016年	1月9日(土)	中川博道神父	2月13日(土)	渡辺幹夫神父
	3月12日(土)	渡辺幹夫神父		

・ 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

2015年	5月13日(水)	ファチマの聖母	松田浩一 神父
	6月17日(水)	教会の中に生きる聖テレジア	渡辺幹夫 神父
	7月15日(水)	マリアと共にイエスを信じ愛する道	中川博道 神父
	9月16日(水)	キリスト教の霊性	松田浩一 神父
	10月14日(水)	聖テレジアの過ぎ越し	渡辺幹夫 神父
	11月18日(水)	観想と活動	松田浩一 神父
	12月16日(水)	人となられた神にともなわれて	中川博道 神父
2016年	1月20日(水)	主の慈しみは、新たになる	渡辺幹夫 神父
	2月24日(水)	生きていることの見直し	中川博道 神父
	3月16日(水)	キリストの過ぎ越し	松田浩一 神父

・ 四旬節の黙想 (午後5時～午後4時)

2016年	3月5日(土)～6日(日)	中川博道 神父
-------	---------------	---------

・ 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

2015年	12月13日(土)～12月14日(日)	松田浩一 神父
-------	---------------------	---------

・ 聖テレザの黙想 (午後5時～午後4時)

2015年	9月30日(水)～10月1日(木)	伊従信子師
-------	-------------------	-------

【奉獻生活の霊的セミナー】 (午後1時～午後2時)

2015年	5月3日(日)～5月6日(水)	中川博道神父 松田浩一神父 渡辺幹夫 神父
-------	-----------------	-----------------------------

カルメル青年の集い (午後5時～午後4時)

2015年	11月22日(日)～11月23日(月)	松田浩一神父
-------	---------------------	--------

【一般のためのカルメルの霊性入門】 (午後5時～午前4時)

2015年	10月14日(火)～10月15日(水)	イエスのテレサ生誕500年閉会式	松田浩一神父
-------	---------------------	------------------	--------

奉獻生活者の黙想 午後5時～午前9時

2015年	7月31日(金)～8月9日(日)	中川博道 神父
	8月21日(金)～8月30日(日)	松田浩一神父
	12月27日(日)～1月5日(火)	松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
12月24日(木)～12月25日(金) [講話なし、各食事つき]



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会, 個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、

お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、

その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6名

【開催日】 2015年 1月30日(金)～31日(土)

2月13日(金)～14日(土)

3月 6日(金)～ 7日(土)

5月 1日(金)～ 2日(土)

5月13日(金)～14日(土)

6月19日(金)～20日(土)

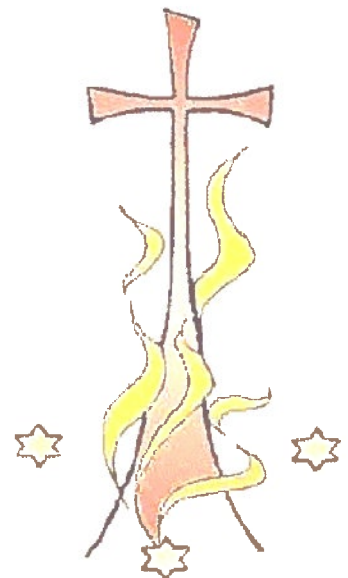
7月24日(金)～25日(土)

9月 4日(金)～ 5日(土)

10月 2日(金)～ 3日(土)

11月 6日(金)～ 7日(土)

12月 4日(金)～ 5日(土)



(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)

【参加費】 各回 6,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へFAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

靈性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話

15:30～ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読 短い講話

14:30～ベネディクション 聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル靈性センター



〒921 - 8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076 - 244 - 7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2015年予定

- M1 2/7 (土) -2/13 (金) 宝塚売布・女子御受難会
- N1 2/23 (月) -3/1 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K2 3/14 (土) -3/20 (金) 東京・小金井・聖霊会
- N2 4/30 (木) -5/6 (水) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K3 6/12 (金) -6/14 (日) 東京・小金井・聖霊会 2泊3日
- T1 7/20 (月) -7/26 (日) 兵庫西宮・トラピスチヌ
- K4 9/19 (土) -9/25 (金) 東京・小金井・聖霊会
- N3 10/27 (火) -11/2 (月) 滋賀唐崎・ノートルダム
- T2 11/17 (火) -11/23 (月) 兵庫西宮・トラピスチヌ
- K5 12/12 (土) -12/18 (金) 東京・小金井・聖霊会

真命山 2015年 — 祈りの集いのご案内

祈りの集い（午前10時～午後3時）

年間のテーマ

「イエス、マリア、ヨセフが祈られた詩編」



- 1月 8日 「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に
適う人にあれ。」（ルカ 2,14）詩篇 1. 34. 117. 19. 150
- 2月 12日 「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を
信じなさい（マルコ 1,15）詩編 51. 21
- 3月 12日 過越祭のハレルの詩編：113.117.136
- 4月 9日 復活祭の詩編：2.110.118
- 5月 14日 詩編 45.89（ルカ 2,46-55）
- 6月 11日 詩編 145.146.148
- 7月 9日 詩編 126.130
- 8月 休み
- 9月 10日 詩編 23
- 10月 8日 詩編 42
- 11月 12日 詩編 137.147.150
- 12月 10日 詩編 来られる主を迎えて：72.96（ルカ 1,68）

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

（真命山院長）

ダニエレ サルティ・サルトリ

神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

リーゼンフーバー神父講座・集いの案内 2015年～2016年

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下(予定)の土曜日、

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラムの詳細は別途公表。

夏学期: 5/16, 5/23, 5/30, 6/6, 6/13, 6/27, 7/11, 7/25, 9/5, 9/12, 9/19

冬学期: 10/10, 10/17, 10/24, 10/31, 11/7, 11/14, 11/21, 12/5, 12/19,

2016年 1/9, 1/16, 1/23, 1/30, 2/6

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体。12月30日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、4月28日、8月11日、12月22日は休み。8月25日は、クルトゥルハイム聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月4日は休み。

・「水曜日ミサ後の黙想」18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。
どなたでも。但し祝日、8月全体、12月30日は休み。

・「通う霊操」8月22日(土)～8月30日(日)18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

・「黙想会」

7月4日(土)10時～5日(日)14時(上石神井)、
11月28日(土)10時～29日(日)14時(上石神井)。1泊2日。7,000円程度。事前申込み要。
[関西]9月26日(土)13時30分～27日(日)15時(宝塚市)。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。
5月16日、6月6日、7月11日、8月8日、9月5日、10月10日、11月7日、12月5日、2016年1月9日、2月13日、3月5日
・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・月曜日、木曜日 17時45分～20時10分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。但し祝日、4月27、30日、7月30日、8月全体、11月2日、12月24、28、31日、2016年3月24日は休み。

●坐禅接心

6月19日(金)20時20分～21日(日)8時30分
8月8日(土)20時20分～15日(土)8時30分
9月19日(土)20時20分～22日(火)8時30分
10月31日(土)20時20分～11月3日(火)8時30分
秋川神冥窟。1泊2,400円(+暖房費)程度。事前申込み要。
[関西]5月9日(土)13時30分～10日(日)15時、7月30日(木)17時45分～8月5日(水)15時。

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。
4月18日(土)、6月27日(土)、2016年1月24日(日)。
10月25日(日)、会員未加入の方にもオープン集い。
13時30分から。岐部ホール4階、404。



リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2015年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 5/1 理性と神認識の道—世界内存在を通して
5/8 創造された世界—人間存在の根拠と自然の意味
5/15 歴史と信仰—神との出会い
5/22 内なる神—その「似姿」としての人間
5/29 新約聖書の神理解—主なる父
6/5 祈りによる神理解—神の偉大さと近さ
6/12 救い主の役割—人類の待望
6/19 神の国—イエスの告げるメッセージ
6/26 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕える
7/3 イエスのたとえ話—神の働きを語る
7/4-5 ●黙想会(上石神井)
7/10 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
7/17 イエスは誰か—イエスの自己理解
7/24 最後の晩餐—自分を与えるイエス
7/25 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内 Kulturl 2階、80人限定)
7/31 ○休み

夏季

- 08/07 イエスの受難—その史実と意図(上智大学内 Kulturl 2階)
08/14 ○休み
08/21 イエスの死—その救済的意義(上智大学内 Kulturl 2階)
08/22-30 ●通う霊操(18時-20時45分)(上智大学内 Kulturl 2階)
08/28 聖書のイエス像—ヨハネとパウロの見たイエス(上智大学内 Kulturl 2階)
09/04 イエスの復活—今に生きるイエス
09/11 聖霊—神の愛に導かれる
09/18 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関わる
09/25 洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2015年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [人生の基礎づけ]
5/19 人間以外のものの意義—世界の使用と聖化
6/2 創造・歴史・救い—イエスという中心
[倫理的行為]
6/16 行為の規範—人間らしさと神の呼びかけ
6/30 自己実現—責任と自由
7/4-5 ●黙想会(上石神井)
7/7 性格の形成—自己受容と善への憧れ
7/21 人間の弱さ—罪とゆるし
7/25 ■感謝のミサ(14時、上智大学内 Kulturl 2階、80人限定)
8/4 ○休み
08/18 有意義に生きる基盤—信仰と希望(上智大学内 Kulturl 2階)
08/22-8/30 ●通う霊操(18時-20時45分)(上智大学内 Kulturl 2階)
[根本的態度]
09/01 唯一の掟—愛による完成
09/15 基本的な徳—判断力・勇気・節制
09/29 共同存在—共通善・正義・奉仕
10/3-4 ●黙想会(東村山)
10/06 個人の道—自己の課題と聖霊の導き
10/20 対人関係と友愛—恵みである他者
11/17 身体と生命—性と倫理
11/28-29 ●黙想会(上石神井)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、
キリスト者としての霊性を養うための
講話と沈黙の祈りで構成された集いです



東京

5月23日（土）「聖霊 来てください」

6月20日（土）「いつくしみの愛」

7月18日（土）「平凡なナザレトの生活」

午後2時 ～ 午後5時30分位まで

講話・祈り・質問・分かち合い

講話 伊従信子

参加費 200円

お申し込み・問い合わせ：ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

京都

5月9日（土）、6月6日、7月4日 13時半～15時 京都NDV 担当：伊従信子

『神はわたしのうちに、わたしは神のうちに』聖母の騎士聖母文庫

三位一体のエリザベット：神の現存

5月12日（火）6月9日、7月7日 13時半～15時半 河原町カトリック会館3階

* 『いのりの道をゆく』 担当：伊従信子

* 祈り：「都の聖母」聖堂にて 15～15時半

5月30日（土） 14時～16時 河原町カトリック会館7階

『神のみ前で』～祈りの時間の作り方～ 担当：中山真里

京都NDV お問い合わせ ノートルダム・ド・ヴィ

〒603-8378 京都府京都市北区衣笠御所ノ内町4

TEL・FAX(075-462-3525)

email : ndvmari@hotmail.com

捧げるということ

網を捨てて従う

2015年度 第回 召命黙想会

日時： 5月16日（土）15:00～
17日（日）15:30まで

場所： ノートルダム唐崎修道院
（JR京都駅から30分）

指導： 山内 十束 師（ご受難会）

対象： 独身女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2015年5月10日（日）まで

<申込み・問い合わせ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

Sr.桂川

Tel: 077-579-2884 Fax: 077-579-3804

e-mail: karainorind92@mbe.nifty.com

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2015年 4月29日(水)～ 5月7日(木)
- ② 8月14日(金)～ 8月22日(土)
- ③ 10月26日(月)～ 11月3日(火)
- ④ 12月27日(日)～ 2016年1月4日(月)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2015年 2月6日(金)～ 2月8日(日)
- ② 2月27日(金)～ 3月1日(日)
- ③ 3月20日(金)～ 3月22日(日)
- ④ 6月19日(金)～ 6月21日(日)
- ⑤ 7月17日(金)～ 7月19日(日)
- ⑥ 9月18日(金)～ 9月20日(日)
- ⑦ 11月27日(金)～11月29日(日)

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2015年 5月25日(月)～ 6月2日(火) 澤田豊成 師（パカ会）

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご
相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
入門B	5/24(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教 室(市ヶ谷)	若山美知子※ Tel&Fax 03-5802-3844
サダナII	5/27(水)17:30- 5/31(日)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720 Sr 比嘉	
フォロー アップ	6/7(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教 室(市ヶ谷)	若山美知子※
入門C	7/5(日) 9:30-17:00	Fr植栗	同上	若山美知子※
サダナI	7/17(金)17:30- 7/20(日)16:00	Fr植栗	カンディダ・マリア・ハウ ス(葉山町)イエズス孝 女会	若山美知子※
サダナI	9/4(金)18:00- 9/6(日)17:00	Fr.マルコ・ アントニオ Fr植栗	聖ドミニコ女子修道院(仙台市青葉区) ★申込み:(郵送またはFAX) 〒仙台市宮城野区東仙台 6-8-25 オタワ愛徳修道院 Sr 内原わさ FAX022-293-3675 *開催場所と申込み先が異なります。	
フォロー アップ	9/13(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナI (入門A. B. C) = 体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナII = Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される

◆フォローアップ=サダナIを終えた方

◆入門C=入門Aまたは入門Bを終えた方



祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

6月11日（木）『靈魂の城』第六の住居・第十章

7月9日（木）、9月10日（木）

11月12日（木）、12月10日（木）

アビラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります。
すでに大分読み進んでおりますが、途中からの参加もかまいません。

* 参加費無料（献金歓迎）

* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原



九里彰神父（カルメル会日本管区長）

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



奥村一郎選集

追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ/小事と瑣事/禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交渉から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け—宗教対話/日本人とキリスト教—遠藤文学の魂

第3巻



日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学—根源への問い/相互愛/「信ずる」と「愛する」/新しい掟

第4巻



日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造/「ことば」から「みことば」へ/聖書と翻訳

第5巻



現代人と宗教 解説・鶴岡實雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教/偶像の喪失/屈辱/「新しい人」としての真人

第6巻



永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛—人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰/人間の栄光と悲惨/神は死せり/十字架の秘義/人間と世界と神

第7巻



カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア/十字架のヨハネ/小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻



神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り/現代における祈りの指導者/祈りとは何か?

第9巻



奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。清らかな矛盾/世を変えるパン種として/清貧の誓願/現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171 Fax: 03-3704-1789

New! 男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



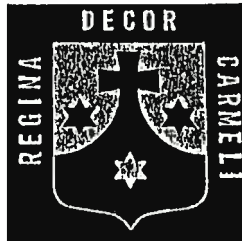
編集後記

今月5月には、跣足カルメル修道会の総会議が、アビラで開かれる。6年に一度のこの総会議で、総長や総長顧問たちが新たに選ばれ、今後6年間の会全体の方向が定められる。今年は、イエスの聖テレジア生誕500周年と「奉獻生活の年」が重なり、カルメル会にとって、きわめて重要な総会議となるのではないかと思われる。

会場は、アビラにあるカルメル会の CITEs (国際聖テレジア・十字架の聖ヨハネセンター)。参加者は総長と総長顧問たち、全世界のカルメル会管区長たち、修道士の代表者、総秘書や秘書兼同時通訳の神父たちやアシスタント等で、115名。さらに一日二日であろうが、女子カルメル会やカルメル在世会の代表者が招待されており、多い時は140名近い人々が、一堂に会することになる。

前回2009年のファティマでの総会議の経験では、月曜から土曜まで、朝から晩まで(午後休憩はあるが)報告や講演や会議の連続であった。公用語のイタリア語、スペイン語、英語、フランス語が入り乱れる。まさに聖霊降臨のような状態である。聖霊助けたまえ。

(P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「5月号」製本日

[5月26日\(火\)](#) 上野毛教会信徒会館ホール1階
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171